音を楽しむしくみ

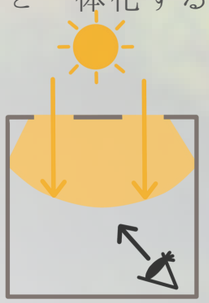
おとのき庵はわずか四畳ほどの小さな建物で、さまざまな観光地に設置されることを想定して作られています。混みあった観光地では、様々な音が混在し、それが一緒くたになると、「騒音」となってしまいます。しかし、その一つ一つの音は本来、それぞれ特色があり、愛されるべき音なのでしょう。
おとのき庵にはそれらの音を楽しむための工夫があります。

おとのき庵に入った人は初め、静寂に包まれ、その後、周囲の音が種類ごとに、順に聞こえてくるようになります。
たとえば、京都の鈴虫寺であれば、木が風で揺れる音が聞こえ、徐々に鈴虫の鳴き声が聞こえるようになり、最後にさまざまな参拝客の声が聞こえてきます。

静寂の中で徐々に聞こえてくる周囲の音は、「騒音」ではなく、愛着の湧く「音」になっているでしょう。おとのき庵は、このようにそれまで気が付かなかった音に気づく、喜びを与えてくれます。これが「おとのき」を体験から理解できる、おとのき庵のしくみです。

土地に根付き、自然に馴染む「音の木」

おとのき庵は、樹木のように土地に根を張り、自然の一部となる、「音の木」でもあります。おとのき庵の天井には木の葉をモチーフとした光を採り入れる、和紙の窓があり、周囲の自然と一体化するとともに、内部に木漏れ日を届けます。



また、窓に使う和紙や、壁の仕上げ、入口などには、設置される地域の伝統工芸品が使われます。その地域でしか体験できない、音の楽しみ方を味わうことができます。

おとのき庵の設置場所

音は一度きりのものであり、まさに「一期一会」のような存在です。場所によって異なる音の響きは、その土地の文化や風景を映し出します。私たちは、日本各地にその地域の伝統工芸品を用いた「おとのき庵」を設置し、そこでしか体験できない「一音一喜」を提供します。訪れる皆様に、各地の独自の音を通じて、心に残るひとときをお届けしたいと考えています。

鈴虫寺（京都）
聞こえてくる音：鈴虫の鳴き声、木々が揺れる音、小鳥のさえずり
伝統工芸品：京すだれ、唐紙